

第1学年〇組 道徳科学習指導案

- 1 主題名 集団生活の充実 内容項目 [C よりよい学校生活、集団生活の充実]
- 2 ねらい 集団生活を向上させるために自分たちにできることを考える活動を通して、学級や学校の一員としての役割と責任を自覚することの大切さに気づき、協力し合って学校生活を充実させようとする態度を育てる。

教材名 「むかで競走」 (出典 「あすを生きる1」 日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

生徒にとって学級や学校は、生活の大半を過ごす大切な場である。学校は、公的な集団生活である点で私的な集団生活の場である家庭とは大きく異なっている。教師と生徒一人一人が学級や学校で自分自身の責任を果たすことや、教師や学校の人々に支えられたり指導を受けたりしながら、互いの人間関係を深め、協力して生活することを通して、尊敬や感謝の気持ちが育まれていく。人間は、他の人間と関係を持ち、集団を作り上げ、様々な集団や社会の一員として生活している。それぞれ目標や立場が異なる集団に所属しながら、共同して日々の生活を営んでいる。人がそれぞれ集団の一員としてより良く生きていくためには、自分の属する集団の意義や目指す目的を十分に理解し、自分の役割と責任を果たし集団生活の充実に努めることが大切である。

指導に当たっては、まず自己中心的な考え方から脱却し、より良い集団を作っていこうとする気持ちを大切にすることが必要である。悪口を言うことや、その悪口に対して苦笑いしかできないという消極的な立場ではなく、人を傷つけることを憎み、集団生活を壊す言動を断固として否定するほどのたくましい意欲が育つように指導することが大切である。さらに、集団生活の中の悪い行いを無くしていくように努力し、学級や学校の一員としての役割と責任を自覚し、協力し合って学校生活を充実させようとする態度を育てる。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

小学校低学年で「先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学校や学級の生活を楽しくすること。」、中学年で「先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級や学校を作ること。」、高学年で「先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってより良い学級や学校を作るとともに、様々な集団の中で、自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。」を学んできている。

本学級の生徒は、6月に臨時休業を経て、クラスとしての活動が始まり、夏休みを終え、2学期には初めての体育祭を迎えた。体育の苦手な生徒もおり、体育祭ではなかなかうまく練習が進まないこともあったが、クラスが一丸となって練習し、特に熱心に練習をした長縄では一位を獲得することができた。しかし、その練習の中で、苦手な生徒に対し、不満を言う生徒の様子も見受けられた。担任が「全てが完璧にできる人はおらず、一人一人苦手と得意な分野はあるのだから、得意な人が苦手な人を責めるのではなく、フォローしてあげることが重要である。」ということをくりかえし伝えることで、不満の声はほとんど聞こえなくなった。今後は、自分がどのような声をかけるべきであったのか、また、特に注意をしなかった周りのクラスメイトはそのことについてどうすべきだったのかを考えさせたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、体育祭で体育の苦手な一宏がむかで競走をうまくできないというところから始まる。それに対し、文句を言う剛をはじめとするクラスメイトたち。しかし、リーダーながらそのような文句を止めることもせず、苦笑いしかできない拓也。ところが一宏が日曜日に友達と練習しているところを見て、立ち尽くす。最終的には、このクラスは準優勝を果たすことができる。リーダーにも関わらず文句に対して注意をしたり、フォローをしたりすることなく流してしまった拓也が、練習する一宏を見てから自分のリーダーとしての役割を自覚し、少しずつ自分の役割を責任をもって果たしていくようになると共に、良い方向に改善していくクラスの様子を生徒が学ぶことで、一人一人が自分の役割を自覚し、その役割を責任をもって果たすことの大切さに気付かせたい。そのため以下の場面を基に話し合うことにする。

①拓也・剛・一宏の3つの立場が描かれている場面。

それぞれの立場で思う心情を考えることで、今回の問題点を知るとともに、本当はどうすべきだったかを考えることで、リーダーではなくともクラスの一人一人にそれぞれの役割があることに気付かせる。

②日曜日に練習する3人の姿を見てしばらく動けなかった場面。

拓也が3人の姿を見て、自分は途中で諦めてしまい、自分の役割を果たせていなかったことを考えさせ、リーダーという役割には果たすべき責任があることに気づき、責任をもって役割を果たすことの大切さについて考えさせる。

以上の理由から本主題を設定した。

4 ねらいとする道徳的価値について考えを深める指導の工夫

- (1) 導入
 - ・体育祭での体験を振り返らせることで、自分事として考えさせる。
 - ・写真を利用することで鮮明に体育祭を想起させる。
- (2) 展開
 - ・3つの立場に立って考えることで、問題点についてしっかりと考えさせる。
 - ・自分の考えを書き、またグループで話し合う活動を通して、多様な意見や価値観に気付かせる。
- (3) 終末
 - ・説話を通して、今後の目標であるスキー宿泊学習について考えさせ、学習を活かすようにする。

5 学習指導過程

段階	学習活動(主な発問)	予想される生徒の反応	・指導上の留意点☆評価の視点
導入	<p>1 体育祭を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなは体育祭で頑張れましたか。 <p>・むかで競走のイラストを提示し、むかで競走がどのようなものかを伝える。</p> <p>・本日のテーマが「集団生活の充実」であることを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりにはよく頑張れた。 ・あまり競技に貢献できなかった。 ・種目にはあまり貢献できなかったが、応援には一生懸命に取り組めた。 ・仲間割れをしてしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭の練習風景や、本番の写真を見せることで、場面を想起させる。 ・本日のテーマを提示する。
展開	<p>2 教材「むかで競走」を聞き、話し合う。</p> <p>(1) 一宏に対する厳しい声が上がってきたとき、3人は何を考えていたのだろう。また、3人はどうすることが良かったのだろう。</p>	<p>「拓也の立場」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足を引っ張っているのは事実。 ・かばいきれないくらいひどいからかばえない。 ・かわいそうだけどどうしようもない。 ・かばってあげたい。 →大切なことは協力することだと伝えて止める <p>「一宏の立場」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ショックだし、辛い。 ・運動神経が悪くて申し訳ない。 →練習しよう <p>「剛の立場」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分はできているのに足を引っ張られて悔しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材名を黒板に書く。 ・3人の立場から今回の内容を考えることで、より良い集団を目指すための今回の内容の問題点に気付かせる。 ・一宏の「苦笑い」から見て取れる、「独りよがりな絶対優勝。」という姿勢についても考えさせる。 ☆3人のそれぞれの立場に立ち、それぞれの立場としての思いを考えている。 <p style="text-align: right;">【発言】</p>

<p>(2) 日曜日、練習する3人の姿を見て、その場からしばらく動けなかった拓也は、どのようなことを考えていたのだろう。</p> <p>(補助発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一宏はなぜ、練習したのだろう <p>(3) 集団生活を向上させるために自分たち一人一人ができることは何だろうか。 【中心発問】</p> <p>3 自己を見つめる これまでのあなたは、所属している集団を高めるために責任をもって役割を果たそうと意識してきましたか。本日の授業を振り返って書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一宏に申し訳ない(自分はリーダーなのにやる気をなくしていた。) ・一宏の気持ちを知り、自分も頑張らなくてはいけない。 <ul style="list-style-type: none"> ・クラスに迷惑をかけないように、自分の役割に対して、責任をもつため ・拓也もやる気にはなれなかった。 ・クラスで団結することもできないし、目標達成に貢献できない一宏をもっと責めるようになる。 <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が役割を自覚すること。 ・自分の責任を全員がしっかりと果たすこと。 ・一人一人が努力する。 ・相手のことを考えること。 ・人の気持ちを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭ではやり切れていなかった。 ・委員会や係活動は一生懸命に努力してきた。 ・あまり、責任感をもったことがなかったなので、今後はもっていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割をしっかりと行わずにやる気をなくしてしまうことは、責任感がないということに気付かせる。 ・一宏の気持ち、練習に付き合う2人の気持ちを考えると、自分がいかにリーダーとして足りなかったのかに気付かせる。 ・一宏がなぜ練習したのか、また、前向きに練習しなかったらどうなっていたのかを考えることで、自分の役割に責任をもつことの大切さに気付かせる。 ・クラスの目標が「優勝」から「全員転ばずにゴール」に変わっていったことについて考えさせることでクラスの変化について考える。 ・自分の役割と真摯に向き合い、途中で上手いいかないことがあっても諦めたりせず、最後までしっかりと行うことの大切さに気付かせる。 ・より良い学校生活への行動ができていなかった生徒にも今後はもっと真剣にやらなくてはいけないと考えさせるように、問い返しを行っていく。 ・生徒にプリントを配付し、自分の意見をまとめさせる。また、その内容を元にグループで話し合わせ、周りの生徒と意見を交換させる。 <p>☆集団生活を向上させるために一人一人ができることを、多面的・多角的に考えている。</p> <p>【発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己を見つめる時間をできる限り確保する。 <p>☆自分の関わりで集団生活が向上するための役割を考えている。</p> <p>【ワークシート】</p>
--	--	--

終末	4 教員の説話を聞く。	・余韻をもたせて終わりにする。
	教員自身の苦手な体育での出来事を話し、それに対して、自分がどのような努力をしてきたか、周囲との関わりから、傷ついたこと、悲しかったこと、嬉しかったことを話す。その中で、相手に対してどのような声掛けをしたり、フォローをしたりすることが重要なのかを考えるきっかけを作る。そして、スキー宿泊学習では、仲良く助け合いながら頑張ろうという内容で話す。	

6 他の教育活動等との関連

事前指導	体育祭の練習や、体育祭を経験する。
事後指導	生徒の書いたワークシートを抜粋したものと板書を、道徳コーナーに掲示する。
家庭との連携	道徳通信に授業の様子を載せて発行する。
特別活動との連携	合唱祭やスキー宿泊学習での活動を通し、本時の内容を活かす。

7 評価

(1) 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・自分の役割に責任も持って果たすことの大切さを様々な立場に立つてできることを考えようとしている。
- ・集団生活を向上させるために一人一人ができることを様々な視点から捉えようとしている。

【道徳的価値についての理解を自分との関りで深めている様子】

- ・自分の役割と責任を果たし、集団行動の充実に努めるために、自分自身がどうするべきかを考えている。

(2) 評価の観点

【教師の指導方法に関する工夫】

- ・自分の役割に責任をもって果たすことの大切さを実感できる発問構成であったか。
- ・話し合いを通して、生徒が自分の考えを深めることができたか。

8 板書計画

テーマ…集団生活の充実
 教材…むかで競争

できましたか
 ・体育祭ではやりきれなかった
 ・あまり責任を考えていなかった

所属している集団を高めるために役割を果たそうと意識し
 ・一人一人が役割を自覚すること
 ・自分の役割を全員が責任をもって果たすこと

集団生活を向上させるため一人一人ができることは何か
 ・一人一人が役割を自覚すること
 ・一宏の気持ちを知り、自分も頑張らなければ
 ・一宏は頑張っているのに自分は遊んでいて情けない
 ← 情けない
 拓也も特訓練習に参加するように
 責任に気付いた

うなことを考えていたのだろう。

日曜日、その場からしばらく動けなかった拓也は、どのよ

・悔しい
 ・下手なのが悪い

・悲しい
 ・申し訳ない

・かばいきれない
 ・注意したい

・注意してあげるべき
 ・協力するべきだと話す
 ・一生懸命に練習すべき

剛・拓也・一宏の立場に立つて考えよう

・アドバイスをする
 ・フォローをする

9 授業の様子

